

URGCCマトリクス

【学士教育プログラム学習教育目標とURGCC学習教育目標との対応関係表】

URGCC学習教育目標		学士教育プログラム学習教育目標	医学学士教育プログラム 学士教育プログラム学習教育目標がURGCC学習教育目標と対応する理由
自律性	自分自身が掲げる目標の達成に向けて、自律的に学習し行動することができる。	[医師として社会に対する責任を果たすために必要な倫理観、社会性、生涯にわたる自己研鑽を怠らない姿勢を身に付けている。さらに、法令を遵守し、適切な対人関係を構築しながら、利他主義、自由平等、寛容平和の精神をもって誠実に医療にあたることができる。] [人々の健康で心豊かな長寿を目指す医療を支えるため、以下の基礎・臨床・社会医学・倫理などに関する知識を習得し、それらを医療の現場で応用できる。] ・本学の理念に基づき、総合的教養人としての能力を身に付けるとともに、基本的な医学・医療の知識吸収に努める。 ・生涯学習としての医学の知識や技術を学び続ける能力を身に付ける。	・大学で学ぶ意義を理解し、21世紀型市民としての自律性を目指しているため。 ・幅広い分野に関心をもちながら、医学・研究者として常に専門能力の向上を自主的に励むことができる能力を目指しているため。
社会性	市民として社会の規範やルールを理解し、倫理性を身に付け、多様な人々と協調・協働して行動できる。	[医師として社会に対する責任を果たすために必要な倫理観、社会性、生涯にわたる自己研鑽を怠らない姿勢を身に付けている。さらに、法令を遵守し、適切な対人関係を構築しながら、利他主義、自由平等、寛容平和の精神をもって誠実に医療にあたることができる。] ・21世紀型市民の一員として、一般道徳を身に付け、さらに臨床医学倫理の学習を通じて、公正な医療の実践について学ぶ。 ・国民の医療の向上の方策を学び、患者の置かれた状況や立場に立脚した医療について学びます。 ・大学病院やその他の医療現場にて実際の臨床症例を経験するとともに、社会環境と疾病の関連性を学ぶ。	・市民の一員としての道徳や医師としての臨床倫理を学ぶため。 ・悩める人々の状況を理解し協働的に対処する能力を目指しているため。 ・実際の臨床現場にて多様な人々の営みと疾病の関連性を学ぶことができるため。
地域・国際性	地域の歴史と自然に学び、世界の平和及び人類と自然の共生に貢献することができる。	[地域医療の現状及び社会資源に関する知識を習得している。地域特性・状況に応じた医療を実践し、地域医療に貢献する姿勢を身に付けている。] [グローバルな視点で疾病の臨床、研究の動向を把握し、海外の医療・研究機関と交流できる。] ・我が国における地域医療並びに島嶼地域である沖縄県の地域医療について学ぶ。沖縄県のおかれた自然的、地理的並びに歴史的な条件を踏まえ、地域医療の現状を学習する。 ・国際性豊かな医学部医学科として、東南アジアなどを主とした諸外国との学術交流を介して外国の医療事情を学ぶ。	・沖縄の自然的、地理的並びに地理的条件を学ぶことを目指しているため。 ・諸外国との学術交流を通じて、医学のみならず、人類の平和や自然との共生について学ぶことができるため。
コミュニケーション・スキル	言語とシンボルを用いてコミュニケーションを行い、自分の考えや意思を明確に表現することができる。	[自らは異なった思考・感情・立場の他者に共感を示し円滑なコミュニケーションを実践できる。] ・国際性豊かな医学部医学科として、東南アジアなどを主とした諸外国との学術交流を介して外国の医療事情を学ぶ。 ・大学病院やその他の医療現場にて実際の臨床症例を経験するとともに、社会環境と疾病の関連性を学ぶ。	・諸外国との学術交流を通じて、医学のみならず、人類の平和や自然との共生について学ぶことが出来、外国語を使用する機会がより増えることになるため。 ・実際の臨床現場にて多様な人々の営みに接し、コミュニケーションスキルを身に付けることができるため。
情報リテラシー	幅広い分野の情報や知識を多様なチャンネルから収集し、適切に理解した上で取捨選択し、活用することができる。	[人々の健康で心豊かな長寿を目指す医療を支えるため、以下の基礎・臨床・社会医学・倫理などに関する知識を習得し、それらを医療の現場で応用できる。] ・大学病院やその他の医療現場にて実際の臨床症例を経験するとともに、社会環境と疾病の関連性を学ぶ。 ・生涯学習としての医学・医療の知識や技術を学び続ける能力を身に付ける。	・実際の臨床現場にて多様な人々の営みに接し、医学のみならず、幅広い情報を収集し理解することができるため。 ・幅広い分野に関心をもちながら、医学・研究者として専門能力の向上を目指して情報を取捨選択して活用する能力を身に付けることができるため。
問題解決力	批判的・論理的に思考するとともに、これまでに獲得した知識や経験等を総合して問題を解決することができる。	[基礎、臨床、社会医学領域においてその研究の意義を理解し、最新の技術を活用して科学的情報の入手及び意見交換を行い、研究倫理を遵守した立場で疑問点に対して解決するために論理的な思考ができる。] ・日本の医学研究を発展させるため、臨床基礎医学を問わず、科学としての医学を強く意識したリサーチマインドをもつ医師を目指す。 ・大学病院やその他の医療現場にて実際の臨床症例を経験するとともに、社会環境と疾病の関連性を学ぶ。	・リサーチマインドをもつことにより、常に批判的・論理的に思考する能力を育むことができるため。 ・実際の臨床現場にて多様な人々の営みに接し、コミュニケーションスキルを身に付けることができるため。
専門性	専攻する学問分野における思考法、スキル、知識等を体系的に身に付け、活用することができる。	[人々の健康で心豊かな長寿を目指す医療を支えるため、以下の基礎・臨床・社会医学・倫理などに関する知識を習得し、それらを医療の現場で応用できる。] [患者個人の人格・人間性を尊重した上で、Evidence-based Medicine (EBM) 及び Narrative-based Medicine (NBM) に基づいた個別の疾患に対する医療を実践することができる。] ・本学の理念に基づき、総合的教養人としての能力を身に付けるとともに、基本的な医学知識の吸収に努める。 ・生涯学習としての医学の知識や技術を学び続ける能力を身に付ける。 ・日本の医学研究を発展させるため、臨床基礎医学を問わず、科学としての医学を強く意識したリサーチマインドをもつ医師を目指す。 ・医学の進歩を常に念頭に置き、先端的な医学知識に柔軟に対応しうる医師や研究者を目指す。 ・大学病院やその他の医療現場にて実際の臨床症例を経験するとともに、社会環境と疾病の関連性を学ぶ。	・大学で学ぶ意義を理解し、医学に関する知識やスキルを学ぶことができるため。 ・医学・研究者として専門能力の向上を目指して情報を取捨選択して活用する能力を身に付けることができるため。 ・常に先端的な医学知識を吸収し、専門性を高めることができるため。 ・科学としての医学を常に意識し、リサーチマインドをもって体系的に知識の獲得ができるため。 ・臨床現場にて患者として接した人々の営みや疾病の多様性から、医学の専門性について再認識することができるため。